

# ボツワナ

## 主要データ

国名〔英名〕	ボツワナ共和国〔Republic of Botswana〕
面積(km <sup>2</sup> )	581,730
海岸線延長(km)	0
人口(百万人)	2.1
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	3.6
GDP(百万US\$)	14,030
一人当りGDP(US\$)	7,627
主要鉱産物：鉱石	銅、ニッケル
主要鉱産物：地金	-
鉱業管轄官庁	鉱物・エネルギー・水資源省 (Ministry of Minerals, Energy and Water Affairs)
鉱業関連政府機関	地質調査所(Department of Geological Survey)
鉱業法	鉱業法(Mines and Minerals Act of 1999)
ロイヤルティ	鉱業法(Mines and Minerals Act of 1999) 貴石：10%、貴金属及び他の鉱物：3%（売上価格に対して賦課）
外資法	Foreign Investment Code (2001)
環境規制法（環境影響調査制度、環境・排出基準の有無等）	環境影響評価法(Environmental Impact Assessment Act (2005) )
鉱業公社	-
鉱業活動中の民間企業	African Copper Plc.、Norilsk Nickel
近年の鉱業関連問題（資源ナショナリズム、労働争議、環境問題等）	特になし
2010年のトピックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Norilsk Nickel（露）は、Tati (Phoenix) ニッケル鉱山(Norilsk：85%、ボツワナ政府 15%) に隣接する3鉱区で、新たに探鉱ライセンスを取得（2010年12月）。</li> <li>・2012年Q1の操業開始に向け現在開発中のBoseto銅プロジェクト(Discovery Metalsが100%保有)に関し、Transamine社(本社：スイス)はDiscovery社の株式25%を取得し、5年間の銅精鉱の引取契約を締結。</li> </ul>

## 1. 鉱業一般概況

ボツワナの鉱業の中心は、ロシアに次ぐ世界第2位のダイヤモンドの生産である（全世界の10%を生産）。銅、ニッケル等の生産もダイヤモンドに比べて規模は小さいものの、国民経済にとって重要な役割を果たしている。1966年の独立以来内戦もなく、アフリカの中でもカントリーリスクの最も低い国であることから各国からの投資を集め、ダイヤモンド、銅、ニッケル、石炭鉱業が牽引役となり大きな経済成長を続けている。2008年4月にカーマ大統領が就任し、引き続き安定した鉱業政策が進められ、鉱山開発及び探鉱の投資促進政策を推進している。

また、政府は鉱業依存の体制を脱し国内産業の多角化を図るため、製造業、金融業、観光業の振興策を推進している。現在ボツワナでは、2016年までの持続的な経済成長を目的とした第10次国家開発

計画が進められている。この中には鉱業における高付加価値化、下流部門の強化なども含まれている。

2009年のボツワナの輸出収入は34億US\$であったが、うちダイヤモンドの輸出収入が17億US\$と約半分を占め、次に銅、ニッケルが6.2億US\$（17.9%）を占めている。2009年は世界的な景気後退の影響により、ダイヤモンドの輸出が低迷したことからマイナス成長を余儀なくされ、GDP成長率はマイナス3.7%となった。2010年は経済が急速に回復していることからGDP成長率は6.4%と予測され、2011年も7.0%と高い経済成長率が予測されている。

初の大規模銅鉱山であるMowana銅鉱山が2008年に操業を開始したが、2009年1月に世界的な銅価の下落と需要の低迷及び1,500万US\$の運転資金の調達が困難となり一時休止した。その後、銅価の回復により2009年8月に操業を再開し、フル生産に向け操業を拡大しているところである。

## 2. 鉱業政策の主な動き

鉱業に関わる主な税は以下のとおり。なお鉱業法（Mines and Minerals Act 1999）では、ボツワナ政府がプロジェクト会社の株式を最大15%まで購入できる規定があるが、実際に本規定が発動されるかどうかはプロジェクトによって異なる。

表2-1. 鉱業法（Mines and Minerals Act 1999）概要

種類	内容
ロイヤルティ	貴石：10%、貴金属及び他の鉱物：3%（売上価格に対して賦課）
変動的法人税率 (VITR: Variable Tax Rate)	計算式により、25%～55%間で変動
資本控除	資本支出の100%が減価償却可能
損失の繰越	繰越可能
配当の源泉課税	配当の15%
輸入関税	鉱業で用いられる資機材は関税免除
付加価値税	原則10%（鉱産物の輸出を含む）。再輸入から6ヶ月以内であれば付加価値税（VAT）の払い戻しが可能。
金属加工業（切削、研磨、製錬）への課税	税率15%（基本税率5%と追加税率10%）

## 3. 主要鉱産物の生産・輸入・消費・輸出動向

### (1) 主要金属鉱石生産量

表3-1. 金属鉱石生産量

鉱種	2008年	2009年	2010年	対前年増減比(%)
銅(千t)	19.8	23.6	25.0	5.9
ニッケル(千t)	22.9	25.8	22.1	-14.3

(出典: World Metal Statistics Yearbook 2011)

### (2) 主要金属地金生産量

データなし

### (3) 主要金属消費量

データなし

### (4) 主要金属輸出量

データなし

(5) 主要金属輸入量  
データなし

4. 鉱山・製錬所状況

表 4-1. 鉱山一覧

鉱山名	権益所有企業 (%)	鉱種	生産量	備考
Selebi-Phikwe 鉱山	Bamangwato Concessions Ltd. (100)	ニッケル (千 t) 銅、コバルト	21.0	2009 年生産量
Tati (Phoenix) Nickel 鉱山	Norilsk Nickel (85)、ボツワナ政府 (15)	ニッケル (千 t) 銅 (千 t) パラジウム (千 oz) プラチナ (千 oz)	14.2 14.1 107 18	2010 年生産量 (3.33t) (0.56t)
Mowana 鉱山	African Copper Plc. (100)	銅 (千 t)	1.6	2010 年生産量

表 4-2. 製錬所一覧

製錬所名	権益所有企業 (%)	鉱種・形態	生産量	備考
Selebi-Phikwe 製錬所	Bamangwato Concessions Ltd. (100)	Ni/Cu マット (千 t)	54.3	2009 年生産量 ニッケル含有量 3 万 t、銅含有量 2.4 万 t、コバルト含有量 342t



図 4-1. 主要鉱山、製錬所位置図

## 5. 探鉱状況

表 5-1. 探鉱プロジェクト一覧

ステージ	プロジェクト名	鉱種	所有企業(権益比率：%)
開発段階	Boseto	銅, 銀, モリブデン	Discovery Metals Ltd. (100) ※2012年Q1生産開始予定。
FS 段階	Golden Eagle	金	lamgold Corp. (85), ボツワナ政府 (15)
	Letlhakane	ウラン	A-Cap Resources Ltd. (100), Korea Resources Corp. (Government of South Korea) ※2013年生産開始予定
試錐探鉱段階	Ghanzi	銅, 銀	Hana Mining Ltd. (70), Stellant (Pty) Ltd. (30)
	Kihabe	亜鉛, 鉛, 銀, 銅, パナジウム	Mount Burgess Mining NL (100)
	Selkirk	ニッケル, 銅, コバルト, プラチナ	Norilsk Nickel (MMC) (100),
	Signal Hill	金	lamgold Corp. (100)
	Tuli	ニッケル, 銅	African Nickel Holdings Ltd. (100)
	Fancamp Gemsbok	金	Fancamp Exploration Ltd. (95), Freewest Resources Canada Inc. (5)
	Jim's Luck	金	lamgold Corp. (60), Cardia Bioplastics Ltd. (20), Mineral Holdings Australia Ltd. (20)
	Kalahari	金	Government of Botswana (100)
	Kraaipan	金	Unnamed owner (100)
	Lekobolo	ウラン	Impact Minerals Ltd. (100)
	Magogaphate	ニッケル, 銅, コバルト	Botswana Metals Ltd. (100)
	Molopo Farms	プラチナ, パラジウム, 銅, ニッケル	African Platinum Plc. (100)
	Sese Uranium	ウラン	African Energy Resources (Guernsey) Ltd. (100)
初期探鉱段階	Dibete	銅, 銀	Botswana Metals Ltd. (100)
	GMR	銅	Medical Corp Australasia Ltd. (100)
	Kokong	金	Chase Resource Corp. (50), Kokong Holdings (50)
	Molomolo	金	Gallery Gold Ltd. (100)

## 6. 我が国との関係

### (1) 日本への輸出

データなし

### (2) 日本企業による投資状況等

- ・ JOGMECは、2008年7月、同国ロバツエ市に地質リモートセンシングセンターを開設した。リモートセンシングセンターにおいてはリモートセンシングを活用したボツワナ共和国の鉱物資源探査事業及び同国の資源探査技術者への技術研修を実施し、プロジェクトの対象をSADC諸国へ広げている。

## 7. その他トピックス

- ・ 2010年2月、Mowana 鉱山において尾鉱の一部流出事故が発生。5月に事故対策計画がボツワナ政府へ提出された。
- ・ 2010年10月、秋田大学は、ボツワナ国際科学技術大学と「学術交流に関する協定」と「交流推進に関する覚書」を締結し、資源分野における人材育成にボツワナ政府と共同で取り組むことを発表した。
- ・ 2010年10月、日本政府の招聘によりカーマ大統領が訪日した。経団連サブサハラ地域委員会と懇談をし、鉱物資源開発やインフラ整備に関し意見交換を行った。

(2011.7.21 ロンドン事務所 小嶋吉広)